

ダイヤランドまちづくり連絡協議会（長崎県）

活動地域

皆さん、こんにちは。長崎県から来ましたダイヤランドまちづくり連絡協議会を代表して発表したいと思います。よろしくお願い致します。

私たちが住むまちはダイヤランドといいます。1984年に造成されました団地です。来年ちょうど30周年を迎える新しい団地ですが、全国的にとっても珍しいカタカナだけの町名です。



生活環境に恵まれて、大変住みよいまちであります。気候にも恵まれておりますし、長崎の港口を眼下に見下ろすことができます。はるかに目を向けますと、五島灘が見えます。とても西日が美しい、夕日が美しい、そういう所です。団地内はお洒落な建物が立ち並び、小学校、中学校、それから市営アパートなどがあります。私たちが防犯活動の拠点として活用している建物は、元駐在所、元と言いましたのは、数年前までは駐在所があったんですが、現在それを廃止しておりますので、その建物を活用しています。

団体の概要

そういった面では大変恵まれているわけですが、さっきも言いましたように、いろんな所から人々が集まってきました。そうしますと、色々な考え方や過去の生活などがありまして、まちはきれいなんだけど、そこに住んでいる人々のまとまりがなかなかできないという時代がありました。自治会が6つあるんですが、連合自治会もできないという、人間関係が大変ギクシャクした時代が20年近く続いたわけです。ですから、町内でどんなことが起きているのか、どんな行事があるのか、どんな事件があるのか、あまりよく分からないという状態がずっと続いてきました。平成14年か15年頃には、全国的にまた長崎県でも、小さな子供たちに関わる悲惨な事件、事故が起きました。高い屋上から小さな子供を投げ捨てたとか、あるいは女の子が自分の同級生を切ったとか、いろんな悲惨な事件が起きました。

そうした状況の中で、ある自治会の会長さんが「うちのよう連合自治会もできない、そういうまとまりの形もできないところで、果たして小さな子供を事故から事件から守ることができるのだろうか」ということを、ある会合のときにつぶやきました。それが核になりまして、「そう、そう」という声が広まりまして、自治会ではなくて自分たちで、団地の自治会や育成協議会、学校などと一緒にして、防犯の会ができないだろうかと取組みを始めました。その中で賛同していただきまして、平成15年5月15日に準備会を経て発足をいたしました。今年10周年を迎えます。

現在ですが、そういった組織に加入している団体が小学校、中学校はもちろん、育英会始め、6つの自治会、その他保育園、育成協議会、社会福祉など33の団体が加入し、団体以外のいわゆる公的役職者といわれる民生委員の方、保護士の方、そういった方々も入りまして、41人の各団体の代表者が集まってダイヤランドまちづくり連絡協議会となっております。

活動の概要

私たちの、このまちづくり連絡協議会はどうennaことしてるのかということですが、具体的に話しますと時間が足りませんので、大ざっぱに申しますが、協議会を作るときに、皆さんで真剣に考えたことがあります。それは、自治会の連合会もできないような殺伐とした人間関係の団地の中で、どんなまちにしていけたら安全・安心のまちになるだろうかということです。いろいろ意見を出し合ってみたところ、人々が心を通わせ、ふれあいを深めることができる街が一つ。二つ目が、犯罪を生まない環境にある街、それから三つ目が、住んでる方々や、あるいは団地の多くの団体、組織機関等がネットワークで結ばれている街の三つが挙がりました。

これらを実現するために、具体的に四つの活動をしています。一つは子供の見守り活動です。ちょうどその頃、車で来た不審者が子供に声を掛ける事案が続いていました。しかも、団地に住んでる人はお互い顔を知らないから、そんな様子を不審に思わない。そういった状態でしたので、見守り活動として青パト活動をしています。年間、土日を除いて200日くらいやっています。今、実施者証を持っているのが32人、助手席に乗って一緒に活動するメンバーを含めて42人おります。車はそれぞれが登録しており、32台あります。

二つ目が環境整備活動です。団地内に公園が13あり、木がたくさん生茂っていて犯罪の温床になりかねないということで、見通しが良くなるように雑草を剪定したりしています。

連絡協議会の概要

創設年月日	平成15年5月15日
構成自治会数	6自治会
議決機関	連絡協議会総会(3ヶ月に1回開催)
関係団体	民生児童委員、少年補導員、青少年育成協議会、育友会、社会福祉協議会、子どもを守るネットワーク、小中学校 など33団体

目指す街づくり

人々が心を通わせ、ふれあう街

犯罪を出さない環境にある街

ネットワークで結ばれている街

①子どもの見守り活動

○青パト活動

年間約200日、主に登下校時間帯をパトロールし、休日は団地内全13箇所の公園を巡回しています。



あるいは、団地の土手があり、土手の雑草を刈り取って、きれいな花を植えています。それから夜間の電灯をつけて明るくしましょうという運動もあります。

三つ目はふれあい活動。特に住民が一番楽しみにしているのがふれあいウォーキングです。これは、約300人近くの皆さんが集まって、昨年はダイヤモンドにある13の公園をウォークラリーをしました。約1時間30分ウォーキングして、帰ってきたら市の担当者を講師にゴミの分別について勉強、その後おいしいぜんざいを食べるというものです。そこでおしゃべりタイムになり、ふれあいを深めることができます。

四つ目が地域啓発活動で、例えば地域防犯パレードをやっています。警察署の協力を得ながら340~350人ですか、参加者が年1回防犯啓発のパレードをしています。

こうしたイベントの日程は、ダイヤモンドの全ての団体の年間の行事予定を示した行事予定表を作成し配布しています。これを見ると、いつ何があるのかが分かるわけです。それをよく活用しております。

四つの活動について紹介しましたが、問題はその後です。これは、冒頭に申し上げましたが、連絡協議会はたくさんの団体、それぞれに立ち位置のある団体の集まりです。民生委員の方だったら高齢者の見守りをする。少年補導員だったら、特に夜間中心にパトロールをする、あるいは育成協議会だったら、あいさつ運動をするなどそれぞれの分野において先ほどの三つのあるべき姿に照らして活動していくわけです。3カ月に1回、年に4回、各団体が活動を報告する会議を持ちます。いわゆる協議会を開いて、情報交換をします。

その会議で、自分たちはこういう活動したけれども、こんな効果があった、こういう方法

②環境整備活動

○アパート、公園内の草木の伐採

アパート、公園の植木が茂ると死角が生まれ、防犯上問題があるので、年間を通じ草刈り等の活動を行っています。



③ふれあい活動

○ふれあいウォーキング大会

住民同士のふれ合いが深まり、知り合いが増えることにつながっています。

毎年2月に行い、冬の風物詩となっています。



④防犯の地域啓発活動

○防犯パレード

毎年11月に開催し、協議会や警察の参加者が中学校吹奏楽部のマーチに合わせて行進し、防犯広報を行います。



● 情報交換活動

○まちづくり連絡協議会の開催

3ヶ月に1回開催し、各団体の情報交換、事業などを協議しています。



は意味がなかったとか、いろんな意見交換をします。実践の反省を含めた経過報告等をする中で、「よし、ああいうやり方を一つ、自分の会に持ち寄ってやろう」というふうに参考にしています。

活動の効果と今後の課題

活動効果

協議会が今年で10年を迎え、青パト隊は住民から認知されて町の安心のシンボルとなりました。

協議会の発足により町全体の緊密な連携が可能となりました。

地域住民のふれあいが深まり、顔見知りが増えました。

これまでの活動の効果ですが、青パトについては、どこもそうと思いますが、親も子供も本当に手を振って迎えてくれます。なかには、学校の門から動かない子供がいて、先生が「どうしたの？」と尋ねたら、「青パトを待っている」というような子供がいます。とても親しみを持っていただいておりますし、地域の安全のシンボルになっているのではないかと考えております。

二つ目は、いろんな団体が一緒に集まって活動するので、住民間の連携意識が深まりまして、最初にあったような心配もなくなり、大変いいなと思っています。特に、まちづくり協議会ができた後、連合自治会を作り、社会福祉協議会も作りました。それで、地域全体がまとまったということは、非常に効果があったと感じております。それから、色々な行事への住民の参加が増えました。これは最初に願った姿に1歩でも近づいているのではないかと思います。

今後の課題

後継者の育成と積極的な世代交代

自主防犯と絆づくり文化の定着化

今後の課題があります。一つはやはり、若い世代にどう受け継いでいくか、どう世代交代していくかが大きな課題になってます。それから、いわゆる防犯活動と防災活動をどういうふうに一体化して組織を作っていくか。今、それが一番頭の痛いところです。まちの名前がダイヤモンド、ダイヤは人を表します。そこに住んでいる人はダイヤの原石なんです。ダイヤ、それからランドはまちなんですね。ダイヤモンドを磨けばダイヤが輝く、まちが輝く、これが私たちのキャッチフレーズでございます。ありがとうございました。

質疑応答

●質問 補導員は夜パトロールに出るということですが、各団体が一緒になっての夜間パトロールなどはないのでしょうか？

○回答 やっています。100人パトロールをしています。小学校単位で子供を守るネットワークがありますが、そこが中心になって、夏に2回ほど10時過ぎに夜間100人でパトロールします。冬は昼間、特に公園を中心に回っております。

●質問 今、青色回転灯のパトロールカー、自前の車を33台使用していますが、ボランティアということで、事故とか車両保険とか燃料代等の問題がいつもあがってきます。福岡市の場合はたまたま公用車の払い下げ制度がありますが、払い下げられた公用車には車検が当然付いてきます。そういう問題を含めて、いろんな経費の問題というのが、一番の関心事だと思います。福岡市の場合は、車検の10万円までは福岡市が助成する制度があります。そのあたり、自前の車を使うのに際して、どうなさっているのでしょうか？

○回答 そこが最も頭の痛いところです。自前の車ですからね。私どもは、ガソリン代は長崎市のほうから1回250円出ます。あと、備品を買ったり回転灯を買ったりするのは、地元の連合自治会が全て負担します。保険の関係は、人身事故等につきましては自治会の保険がそれに加入しております。ただ一つ車両に関して、今のところは、まだ結論出ていません。すみません。

●質問 そういう面では、福岡市のような払い下げ制度とか、あと備品等は福岡県か福岡市かが10万円か5万円か補助金等がありますので、そこら辺をうまく利用していくということでしょうか。

○回答 長崎市内に青パトを実施しているのが16団体ありますが、それぞれバラバラです。やはり、ある方が今のように個人持ちだったら何か問題起きたら困るのでできないと。自治会で買ったり団体で買ったりしますけど、そうすると数がもう増えないということで、どうすればよいかと。いい勉強になりました。ありがとうございました。